



パートナー通信安曇野 第9号

2010.3.2

発行:NPO 法人信州ふるさとづくり応援団安曇野支部
安曇野市穂高柏原 1132-2 (有)ライフポート安曇野内
TEL : 0263-81-1325
URL : <http://npo-furusato.way-nifty.com/azumino>

編集:木船



みみより情報①

「第8回ふるさとウォッチング in 安曇野」を開催！今回は穂高旧市街地区。

来る3月28日(日)、第8回ふるさとウォッチング in 安曇野を開催します。今回は穂高駅東側に広がる旧穂高地区の市街地一帯。穂高神社を皮切りに、井口喜源治記念館、松沢求策生家、旧糸魚川街道、わさび田、道祖神、礫山美術館(建物のみ)などを訪ね歩きます。古来より安曇野の顔だったといっても過言ではないこの地を知らずして安曇野を語るなかれ。ふるってご参加ください(文/木船)。



左は松沢求策の生家。旧糸魚川街道沿いにある。なんと、居酒屋が借りて営業している。上、右は井口喜源治記念館。相馬愛蔵、黒光、礫山をはじめ、内村鑑三、新島襄ら近代日本黎明期の偉人らとの交流や、清沢研ら成義塾が輩出した傑物についてなど、資料豊富。知るほどに喜源治のスケールに圧倒されます。

みみより情報② 当NPOが協力参加する催し。

イベント名	日時	場所	内容
「安曇野環境市民ネットワーク」交流会	3/7(日)10:00~12:00	豊科公民館ホール	(別紙参照)
「私の好きなビューポイント安曇野2010・冬」展	3/19(金)~同24(水)	穂高交流学習施設「みらい」	(別紙参照)

みみより情報③ 「ふるさとウォッチングマップ・第1集」発行。

ご好評をいただいている「ふるさとウォッチング」の過去5回分をまとめた「ふるさとウォッチングマップ・第1集」を、3月下旬に発行予定です。平成21年

度県の元気づくり支援金を活用し、参加者に配布した資料ファイルをもとに第1回~第5回分をB5版カラー28ページにまとめた小冊子(非売品)で

す。尚、平成22年度「ふるさとパートナー」登録会員には、無料で差し上げます。(文/宮崎)

報告① 「100万人のキャンドルナイト in 安曇野 2009冬至(全3箇所)」に参加しました。

① at 小島病院(12/19)

「平和でおだやかな気持ちをみんなが持てたら…」病気で闘っている子ども達、保護者のみなさん、そして医療スタッフのみなさんへもそういう気持ちをお届けしたい。それが県立小島病院での開催を決めた理由です。当日の朝は雪でしたが夕方にはすっかり溶け、寒いけれども絶好のキャンドルナイト日和。子ども達のことを思いながら、次々とキャンドルを灯していきました。「ゆくりりっく」のみなさんの温かい歌声に、病室の窓をあけて聴き入ってくれている子ども達もいて、感動の瞬間でした。

② at 「みらい」(12/22)

冬至当日には、穂高交流学習施設「みらい」で。教育委員会主催のクリスマスコンサートにも、企画段階から関わらせていただきました。事前に開催



した「あんどん作りワークショップ」の作品も展示しながら、あたたかなキャンドルの灯りと、素敵なコンサートの時間を多くの方々と一緒に

きました。篠笛とギターのコラボレーション「Neo with 香奈子」の演奏に、会場は感動…。

③ at あづみの公園(12/23)

国営アルプスあづみの公園「森の光物語」の水辺エリアで行われていたキャンドルナイトに合流させていただきました。千個のろうそくが輝く中、私たちの

シンボルキャンドルが点灯されると、カップルをはじめ多くの方が歓声をあげ、感動しながらゆらめく灯りに見入ったり、記念撮影をされていました。

いろいろなつながりの中、3箇所での開催となった今回のキャンドルナイト。それぞれに意味があり、豊かな心と深い想いが重なり合った、本当に感動的

な時間でした。ふるさとづくり応援団のみなさまがたには、積極的なご協力をいただき心より感謝申し上げます。また、次回夏至の開催を楽しみに…。(文/田村:安曇野キャンドルナイト実行委員会事務局長、当「応援団」会員)

報告② 「ふるさとづくり応援団忘年会 2009」のこともちょっとだけ。

・・・遅ればせながら忘年会のご報告です。去る12月11日メンバーの忘年会を行いました。「ミーティングもあるし泊まりでやろうよ！」の声が上がり、場所は豊科の田沢荘さんに決定。ミーティングもそこそこに、さあ宴会宴会となればあつという間に大盛り上



がり。メンバーも増えて活動も更なる充実と広がりを見せるふるさとづくり応援団ですから、あちらの席こ

ちらの席で未来への熱い語らいにお酒もどんと進みました。

また田沢荘さんの料理がすばらしかったのです。ほんとに逸品ぞろいの料理の数々に皆が大絶賛！なかでも土瓶蒸しのお出汁の味が忘れられません…。田沢荘さん御世話になりました。翌朝、これまた絶品の朝食をいただきながら、「来年の忘年会も…」と皆が思ったことでしょう。

(文/細井)

お知らせ 「ふるさとパートナー」登録更新のお願い。

平成21年度「ふるさとパートナー」の登録期限が3月末で終了します。平成22年度への継続には、更新手続きと年会費1,000円が必要となります。当会の運営には皆さまの支援が欠かせません。詳しくは後日あらためてご案内しますので、是非継続をお願いします。尚、28日の「第8回ふるさとウォッチング」の会場でも受け付けます。

《書評》 田舎暮らし、安曇野に関わる図書へ当NPOスタッフがご案内します。

丸山一昭、岩中祥史著 『新・不思議の国の信州人』(2001年KKベストセラーズ刊 251P 定価562円)

～信州人の信州人による信州人のための自戒の書。

「ふるさと」を読み⑤ 深い信州ガイドにもなります。～

「信州人ってのは人の出世や成功をひがむんだよな。足を引っ張ることにかけては日本一。」「成功した人に対しては裏で足を引っ張りながら、表向きはへつらう風潮も強い。」「右か左か、白か黒か、はっきりしないと気が済まない。」「協調性に乏しく、組織になじまない人が多い。団結力もない。」「また気位の高いこと高いこと。」と、冒頭から筆者は長野県人のけっしてうれしくない特徴をあげられかんと挙げて見せる。そしてそれらを裏付けるものとして、古くは内村鑑三に始まり、元長野県副出納長、国文学者、心理学者、さらには新潟県の一般の人々らによる、長野県人に関する言葉を引いた上で、特に共通していると思われる点は、「キマジメ」で「理屈っぽい」ところと指摘する。「論多くして、事進まず」などという評には、思わず吹き出さずにはいられない。

そして、団結力がないことの原因

のひとつとして筆者が挙げるのが、かつて多くの山に阻まれて独自の生活圏を形成してきた11の藩を、廃藩置県によって人為的に一つの行政区域として束ねたのが現在の長野県であるという事実。

ゆえに長野県人には未だに同郷人という意識は希薄で、むしろ北信、東信、中信、南信の4地区がそのまま4つの小さい“県”であり、それらの各“県”はさらに市町村単位の小“県”に分離独立しているとする。そんなわけだから、かつて県庁所在地争奪を賭けて長野市と松本市が展開した“南北戦争”は、実は今でもくすぶっているという。その証左の事例として、長野オリンピックと田中康夫知事誕生(当時)への県下各地の反応の違いを挙げる。

こんなことではいけないというので、少しでも同郷意識を持たせる仕



←表紙絵は故・池田満寿夫による。

掛けの一つとして生み出されたのが、県歌「信濃の国」だという(明治33年)。つまり「信濃の国」は星条旗ながらに、「信州合衆国」統合の象徴のようなものとする。

「寝た子を起こすな」という言葉がある。しかし起こさなくてもいざ子供は目を覚ますのだから、時間が来たら叩いてでも起こせ、と言わんばかりの骨太な試み、それが本書だ。長野県人のなんたるかなど全く知らなかった若い県人も、これを読めば明治、大正、昭和の県人にかなり近づくことができる。「白か黒か、はっきりしないと気が済まない」長野県人たる著者による、まさに県人の本領をフルに発揮した一冊だ。

(文/木船)